

# 龍と鳳凰主題に羊も 教義的 独自の天井画

現代人の姿を羊に投影した表現で知られる洋画家の泉谷淑夫さん(70)＝岡山大名誉教授、総社市三須＝が、笠岡市神島の法華寺に奉納する一対の天井画を制作した。仏法の守護神とされる龍、平和を象徴する鳳凰を主題にしつつ、羊を加えて自身のテーマも追求した独自の仏画に仕上げている。(平松隆)

## 洋画家泉谷さん(総社)制作

法華寺は日蓮宗で、宗念し、天井画の制作を計祖・日蓮(1222～82)画。井口寛昭副住職(42)年)の生誕800年を記が岡山大時代の恩師の泉



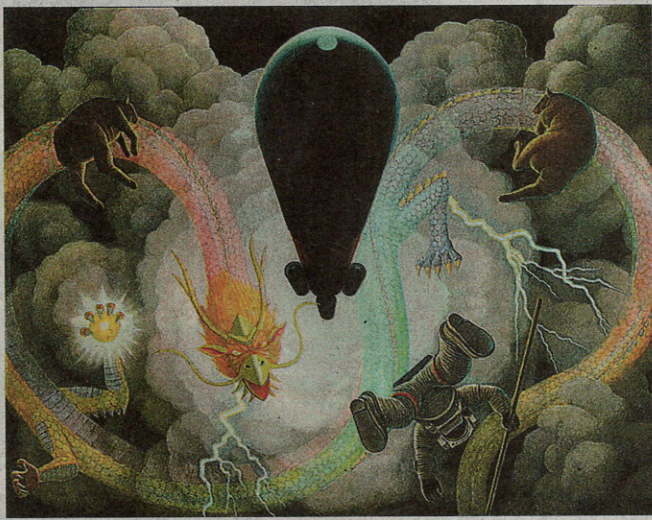
「蓮華鳳凰図」を制作した泉谷さん(右)と井口副住職

## 来春、法華寺(笠岡)に奉納

谷さんに依頼した。20世界を表している。「仏教の迷いと悟りの世界を想起させるなど、思った以上に教義的なイメージが盛り込まれていて驚いた」と井口副住職。宗教画は初めてという泉谷さんは「自分なりの龍や鳳凰を描くこところる羊を見守るように鳳凰が舞う。各縦1002枚、横234枚。経年によるゆがみなどを防ぐため特注の木製パネルに描いた。

穏やかな極楽浄土の鳳凰図に対し、雷光図は人工的な力を暗喩するrocketに龍神が怒る不穏な堂の天井に設置する。

作品は岡山市北区天神町、岡山県天神山文化プラザで5月30日～6月4日に開く泉谷さんの回顧展で披露。来春、同寺本堂の天井に設置する。



「龍神雷光図」